



校長室だより 2

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和6年1月10日
5年度第28号

2024年スタート 3学期もよろしくお願ひします

★突然の大地震に遭遇して…

元日の大地震は本当に突然の出来事でした。荻生小の体育館も地震直後から緊急の避難場所になり、自宅の揺れに不安を感じた10名余りの方が避難してこられました。夜には消防団の方などの呼びかけで全員が近くの「荻生の館」にまとまって移動し（館は一時20名ほどの避難者が集まりました）、その後は深夜前に自宅に戻られた方がほとんどでした。ただ、市内の小中学校の中には数十人もの避難者が夜を過ごした学校もあったとのこと。皆さんそれぞれの場所で大変な夜を過ごされたことでしょう。翌2日の朝になると各々徐々に自宅に戻られたそうで、各学校の避難所も順次閉鎖しました。

学校では2日から、安全メールや電話で全校児童と教職員の安否確認を行いました。また同じく、校舎内外の施設の被害状況を管理職と市の職員とで繰り返し確認しました。荻生小は全校児童・教職員とも全員無事で、また、落下物が多少あった以外は校舎内外に大きな損傷や被害は見られませんでした。本当に幸いでした。大きな被害に遭われた地域の方には申し訳ないような気持ちもありますが、黒部市ではこうして予定どおり9日（火）に第3学期始業式を行える運びとなり、ひとまずほっとしました。

★始業式では大谷選手のグローブの紹介も行いました。

始業式に先立ち、北日本新聞の新春コンクールで入賞を果たした子の表彰を行いました。1日の紙面で氏名や作品、顔写真も紹介されていたので、目にした人も多いことでしょう。作文で金賞1名、銀賞1名、書で銀賞1名、詩で銀賞1名、入選1名という素晴らしい成績でした。おめでとう！

（始業式の「校長の話」より 要旨抜粋）

大谷選手はこのようなことを言っていました。

「自分が打てるボールを選択して振る。シンプルですがなかなかできないことを一年間継続するのがバッターなので。」（2021年NHKスペシャル）

ボールを選んでバットを振るのは当たり前のような動作ですが、速球を瞬時に見極めるのは実際には大変難しいこと、「なかなかできないこと」です。空振りでも気持ちがへこむことも多々あるでしょう。しかし、ぼやぼやしていると見逃しになります。集中して判断し、ここぞと思いつきバットを振る。…きっと大谷選手（プロの野球選手）は「自分にはできる」と確信する力、自分を信じる力も強いのでしょう。

辰年は大きな飛躍・成長を夢見る年です。しかし、魔法のような秘策はありません。自分の力を信じ、目の前のチャンスをとらえて挑戦する。その繰り返しの先に大きな成長が待っているのです。一日一日を大切に、自分の力を信じて、目の前の「できそうなこと」から「なかなかできないこと」にも思い切って挑戦する、そんな一年にしましょう。

始業式では、まず地震のことを話した後、次に年末に大谷翔平選手からのグローブが届いたことを紹介しながら、大谷選手のバッターとしての言葉を取り上げました（左枠参照）。「自分が打てるボールを～」という言葉の深さもですが、地震のこともあり、一日一日を当たり前と思わず大切に過ごしてほしいという思いから、話をしました。

式の後、体育担当の高松先生が改めてグローブと「野球しようぜ！」の手紙を紹介しました。スポ少で野球を続けている6年生が、代表でキャッチボールもしてくれました。

最後に、今後のグローブの置き場所、グラウンドで遊ぶ際の注意事項について説明がありました。

さて、この日の昼休みに早速グラウンドでキャッチボールをしている子たちがいま



ました。でも、雨上がり直後でまだグラウンドはベチョベチョのはずでは？ 案の定、新品のグローブにたちまちボールごと泥がついているようでしたが、当人たちは全く意に介さず嬉しそう…。ただ、使い終わった後には泥を手で払い落として片付けていました。ちょっとハラハラしますが、せっかくのプレゼントの品を、有効に楽しく使ってほしいと思います。



★この「校長室だより」のカラー版は本校ホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校内書初大会を行いました

9日（火）は始業式に続いて校内書初大会を行いました。硬筆の1・2年生は教室で、3年生以上は体育館で一斉に行いました。肌寒い中でも集中して取り組む子供たちの姿が素晴らしかったです。

放課後に教職員で審査を行いました。10日（水）～12日（金）の作品展に、ぜひお越しください。



シリーズ「教室におじゃまします」1/9(火)2年学級活動の巻

書初大会のあとの3限に、平野先生はみんなで楽しめる「名探偵ゲーム」を用意していました。子供たちに最初に配られたワークシートには「お年玉をもらった」「ゲームをたくさんした」「もっと寝ていたい」等、冬休みの生活や今日の心境に当てはまりそうな質問が14コ、あと1コは各自で質問を考えて書き込み、ゲームの下準備をします。

次に遊び方の説明です。先生と代表の子が見本を示します。①相手を探し、ジャンケンをする。②勝った方が相手に質問をする（例「お年玉をもらいましたか？」）。③相手の答えが「はい」だったら名前を書いてもらう。つまり相手に合った質問を選べると有利です。

方法が分かったところでゲーム開始！ 皆、席を立って教室内をグルグルと回りながら質問します。笑顔がいっぱい、みんな楽しそうです。ゲームを通してお互いのことを知るきっかけ、新しい会話のきっかけになっていました。新学期のスタートにピッタリの内容でした。

時間になり、何人の名前が集められたかを挙手で確かめました。12人分集まった子が最高でした。みんなで拍手をしました。そして、「今年もよろしく！」先生のかけ声に合わせてみんなで声をかけ合い、楽しい時間が終わりました。



おまけの<ひとりごと>元日の地震の際、皆さんどこにおられましたか。私は海の近くにある実家で過ごしていました。揺れも怖く、その後の津波警報（ほどなく大津波警報になりました）で「避難しなくては！」となったのですが、お酒を飲んでた大人だらけで、運転可能なのは私を含め数人だけ。車に分乗し、なんとか三日市の自宅まで移動しました。途中、「逃げる！ 逃げる！」と緊迫感あるラジオのアナウンスに動揺しそうでしたが、そばに同乗者がいるとギリギリ安心できました。一人ではないということがこんなに心強いとは…！ そうして家族を家に降ろした後、ようやく荻生小まで駆けつけることができました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校ホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校長室だより第28号への感想

年 児童名